

(様式1)

## 令和2年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立豎川中学校
校長名	織部 明広

### 1 本校の学力に関する状況

#### (1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1学年は全国平均より国語総合が+5.2、社会総合が+3.7、数学が+5.2上回っている。</li><li>・ 2学年は全国平均より数学が+3.8、英語総合が+3.0上回っている。</li><li>・ 3学年は全国平均より社会総合が+5.8、数学が+7.1、英語総合が+3.9上回っている。数学はAB層が67%となった。</li></ul> <p>3年生理科の観察実験の技能の観点で全国平均より+9.4上回っている。また理科総合では2年時から3年時では全国平均より+0.5の伸びが見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1学年は全国平均より理科総合が-2.7下回っている。活用は全高平均を上回っているが、基礎が-4.6下回っている。自然事象についての知識・理解の特に「大地のつくりと変化」は-11.5下回っている。</li><li>・ 2学年は全国平均より国語総合が-0.2、社会総合が-2.2、理科総合が-2.6下回っている。</li><li>・ 3学年は全国平均より理科総合が-1.4下回っている。特に活用が-4.0下回っている。</li></ul>

#### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全学年での規範意識の設問では、学級の規範意識、いじめのサイン、対人ストレスで全国平均を上回り、学習環境がおおむね良好である。また、学習習慣の設問4「家庭で授業の予習や復習をしていますか。」では、第1学年では全国平均肯定率を6.4P、第3学年では6.9P上回っている。設問5「テストでまちがった問題は、あとでやり直すか」では、1年で全国平均肯定率を2.6P、第3学年で1.6P上回り、各教科の正答率の向上と比例関係である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第2学年での学習習慣の設問4「家庭で授業の予習や復習をしていますか。」では、全国平均肯定率を9.2P、下回っている。設問5「テストでまちがった問題は、あとでやり直すか」では、全国平均肯定率を4.3P、下回っている。</li></ul> <p>○今後は、校内で実施している家庭学習帳の提出率を上げ、後期パーフェクト賞30%→50%に上げていく。また、各教科での小テスト、単元末テスト、定期考査のやり直しを徹底させ、学習習慣を身につけ学力の向上を図る。</p>

#### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 数学での学び合い活動を始めて4年目になるが、目の行き届いた指導を生徒が緊張感を保ったまま維持できるようになった。緊張感の中でも質問しやすい雰囲気ができ、少しのつまづきをすぐに解決することができた。教えている生徒の理解もさらに深まり全体として基礎能力の向上につながった。</li><li>・ 全学年で家庭学習帳を毎日行う取り組みで、1年間の提出率が90%を越える生徒がほとんどである。家庭学習の習慣が身に付いている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学び合い活動を行うのが難しい教科もあるので、それぞれの教科の中で授業中に学力定着を図る方法を検討していく必要がある。</li><li>・ 特定の生徒は家庭学習を提出できていない。その生徒は日々の課題や、定期テスト・区の学力調査の結果にも影響が出ている。授業内での個別対応や、家庭学習の取り組み方の指導等も行っていく必要がある。</li></ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 各種コンテストに対して、学校全体で組織的に取り組んでいく。

年間を通して、漢字コンテスト・数学コンテスト・英文コンテスト・新聞コンテスト・地理コンテストの5つのコンテストを行う。教科を越えて、学校として事前の学習指導を行う。優秀者を表彰し、昨年度からの成長を伝えていくことで意欲の向上に努めていく。コンテストの期間だけでなく、日頃から学力が定着するように各教科の授業の中で定期的に振り返り学習を行っていく。

### (2) 教員の授業力向上に向けての取り組み

管理職による定期的な授業参観による指導助言を実施する。区外の指導教諭の模範授業の報告会や職員会議のミニ研修で指導の工夫・評価・評定について管理職より資料提示し、研修を深めていく。授業互見習慣をもうけ、お互いの授業を評価していくことで、教員の授業力と意識を高めていく。

### (3) 主体的、対話的で深い学びの評価、生徒の意欲を向上させる評価の仕方の研修

令和2年度墨田区教育委員会研究協力校として、新学習指導要領実施に向けた各教科の新しい観点の評価材料と評価方法を検討していく。授業を行う際に、どのように生徒の学力向上につなげ、どのように評価すれば生徒の意欲向上につなげられるか研究を深めていく。またこの研究を通して、教員間で評価の出し方、評価の根拠などの共通理解、情報の共有をしていく。

## 3 「令和3年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・第1学年では、理科の正答率を全国平均値までに引き上げるため、ICT機器を効果的に活用し、科学的思考・表現、観察・実験でグラフや表の資料を読み取り、推測し、考察を行う。また、演習問題、単元末テストで確認していく。さらに、自然事象については、単元ごとに振り返りのため小テストを実施し知識・理解の定着を図り、D・E層を30%台に抑え、C層を30%に引き上げB層からA層に5%引き上げる。
- ・第2学年では、社会の歴史、政治社会での資料活用の小テスト等の演習を数多く実施する。また、月に1回以上資料活用の仕方について説明授業を実施する。理科では、実験・観察の技能を高め、事象についての調べ、実験の考えを説明できるようにする。また、各単元末に振り返りシート、演習プリントを実施する。さらに、ワークシートを有効活用し考察やまとめを充実させる。以上の取り組みをし、社会50%、理科41.7%のD層を30%台に減らし、C層に引き上げ、AB層を40%に引き上げていく。
- ・第3学年では、理科の観察・実験の技能以外の観点の正答率を上げるために、毎授業後の振り返り、単元ごとに小テスト、単元末テスト、受験対策に向けて復習問題や過去問等に取り組み、D層を30%以下に抑えC層に引き上げAB層を40%以上に引き上げていく。